

公益財団法人日本ソフトボール協会はわが国におけるソフトボール界を統轄し、代表する団体として、定款に掲げる目的を達成するため、以下の諸事業を実施した。

公益目的事業

<ソフトボールの普及奨励及び競技力向上>

1) 国内普及事業

2018 年千葉県で開催される世界女子選手権大会、2020 年東京五輪に向け、日本代表チームへの注目度を高め、ひいてはソフトボール競技への関心、人気の高まりを図るため、日本代表チームに「SOFT JAPAN」シンボルロゴを制作し、シンボルロゴを使った各種制作物を作成、またポスターを各所に配布するとともに各種メディアへの露出をはかった。

日本リーグ開催時には、日本リーグ加盟チームによる地元でソフトボールを行っている子供達を対象にしたソフトボールクリニックを実施、また日本トップリーグ連携機構と連携しソフトボールクリニックやボールゲームフェスタなどを通じて普及活動を行った。

また、30 年度から実施する幼児向けの体験プログラムの検討、それに伴う用具の検討を行った。

国内において、日本リーグの開催と国際大会を 3 大会（東アジアカップ、日米対抗、JAPAN CUP）開催し集客を図るとともに各種メディアへの露出をはかった。

2) 学校体育普及事業

文部科学省・学習指導要領の改訂に伴い、平成 24 年度から球技・ベースボール型＝ソフトボールが中学校 1・2 年生の必須種目となったことを受け、教員で構成するプロジェクト(学校体育推進委員会)を設置して、指導用ガイドブック・動画 DVD の配布・ホームページへの掲載を行うとともに体育授業の継続的な実施が叶うよう、NPB と連携し全国 17 会場で小・中学校の教員を対象にしたベースボール型授業の研究会を実施した。さらに、山梨県甲州市において幼児を対象としたソフトボール教室の視察を行い、来年度以降の幼児を対象とした用具の開発を含め、普及事業の展開の検討を行った。

3) 国際交流事業

日韓ジュニアスポーツ交流事業を平成 29 年 9 月 1 日～7 日に GEM2 (U16) 女子日本代表チームを韓国・原州市に派遣し、また、平成 29 年 11 月 13 日～18 日に韓国ジュニア女子代表チームを岐阜県揖斐川町に受け入れる相互派遣方式で実施した。この日韓ジュニアスポーツ交流事業は、アジア近隣諸国とのスポーツ交流の促進と相互理解を深めることを目的にスタートした事業で、韓国側からの強い要望で実施され今回で 17 回目となる。両国の友好親善とソフトボールの普及・振興、競技力向上を目指し積極的な交流を行った。

また、平成 29 年 8 月 8 日～11 日、宮崎県宮崎市に台湾の女子ジュニアチームを招待し、当初は GEM2 (U16) 女子日本代表チームと試合を行い交流を図る予定であったが、台風の影響により GEM2 (U16) 女子日本代表チームを現地に派遣できず、宮崎県内の中・高校生と試合を行った。さら GEM1 (U14) 日本代表中央選考会で選考された選手 17 名を平成 30 年 1 月 14 日～20 日、台湾・台中市に派遣し、友好親善とソフトボールの普及・振興、競技力向上を目指し積極的な交流を行った。

また、アジア地区との交流ならびに競技の普及を目的に、平成 30 年 1 月 15 日～18 日、マレーシアで開催されたアジア連盟理事会に合わせ、アジア各国の指導者・選手に対してクリニックを実施、さらに平成 30 年 3 月 7 日～9 日、千葉県にアジア 9 か国 23 名の指導者を集め講習会を実施した。

さらに、ボツワナ、ウガンダ等アフリカ諸国への用具寄贈、外務省の要請に基づくグアテマラへの指導者派遣並びに用具寄贈、JICA と連携したネパールへの用具寄贈を行った。

4) 広報事業

ホームページまたはフェイスブック、ツイッター等 SNS を活用し、大会やソフトボールに関する情報あるいは試合結果を動画も取り入れながら随時更新し情報発信を行った。

日本女子 1 部リーグ全試合をネット配信、一部全国大会についてもネット配信を行った。

また、運動記者クラブと連携を取りながら大会等の広報を行った。

5) 強化事業

我が国におけるソフトボール競技の更なる競技力向上を図り、国際舞台で活躍できる選手の育成、強化を図るため、国内合宿 18 回（女子日本代表 7 回、GEM4: 2 回、GEM3: 4 回、GEM2: 2 回、GEM1: 1 回、男子日本代表 2 回）、海外合宿 4 回（女子日本代表 2 回、GEM2: 1 回、GEM1: 1 回）、国際大会派遣 11 回（女子日本代表 6 回、GEM4: 1 回、GEM3: 1 回、GEM2: 1 回、男子日本代表 1 回、男子 GEM2: 1 回）を行った。また、ヨーロッパ選手権大会、日本リーグ、全日本大会へ視察員を派遣し情報収集活動を行った。

6) 技術研究事業

競技力向上へ寄与するため、NTT と連携し脳科学的な実験、データ収集を行い、また、ルール改正されたストライクゾーンに対応するための研修用の映像を制作し、審判員等への配布を行った。

<ソフトボールに関する競技会の開催>

1) 平成 29 年度全日本大会 (32 大会)・日本リーグ (女子 1 部 32 会場、女子 2 部 8 会場、入替戦 1 会場、男子 8 会場 (東日本 3、西日本 4、決勝トーナメント 1)) を開催した。

2) 平成 29 年 6 月 18 日～21 日、青森県弘前市において「第 6 回東アジアカップ (女子)」、6 月 23 日～25 日、東京ドーム並びに宮城県仙台市を会場に「日米対抗ソフトボール (女子)」

を、8月25日～27日、群馬県高崎市において JAPAN CUP 国際女子ソフトボール大会を開催した。

<ソフトボールに関する代表選手の選考ならびに派遣>

1) GEM4 (女子) 日本代表選手選考会の実施

平成 29 年 4 月 11 日～13 日、静岡県伊豆市にて 94 名の参加を得て実施した。

2) GEM3 (女子) 日本代表選手選考会の実施

平成 29 年 8 月 31 日～9 月 2 日、静岡県伊豆市にて 40 名の参加を得て実施した。

3) GEM2 (女子) 日本代表選手選考会の実施

平成 29 年 4 月 14 日～16 日、静岡県伊豆市にて 58 名の参加を得て実施した。

4) GEM1 (女子) 日本代表選手選考会の実施

平成 29 年 11 月 9 日～12 日、静岡県伊豆市にて 30 名の参加を得て実施した。

5) 男子 U19 日本代表選手選考会の実施

平成 29 年 11 月 16 日～18 日、静岡県伊豆市にて 64 名の参加を得て実施した。

6) USA ワールドカップ大会への派遣

平成 29 年 7 月 1 日～9 日までアメリカ・オクラホマシティに女子日本代表チーム（選手 17 名、スタッフ 10 名）を派遣。7 カ国 8 チームの参加を得て開催された USA ワールドカップ大会に参加し女子日本代表チームは優勝した。

7) カナダカップ大会への派遣

平成 29 年 7 月 10 日～19 日までカナダ・サレーに女子日本代表チーム（選手 17 名、スタッフ 11 名）を派遣。8 カ国 16 チームの参加を得て開催されたカナダカップ大会に参加し女子日本代表チームは優勝した。

8) カナダカップショーケースゴールドトーナメント大会への派遣

平成 29 年 7 月 6 日～18 日までカナダ・サレーに GEM2 女子日本代表チーム（選手 17 名、スタッフ 6 名）を派遣。2 カ国 20 チームの参加を得て開催されたカナダカップショーケースゴールドトーナメント大会に参加し GEM2 女子日本代表チームは優勝した。

9) 第 11 回アジア女子選手権大会への派遣

平成 29 年 11 月 25 日～12 月 5 日まで台湾・台中市に女子日本代表チーム（選手 16 名、スタッフ 9 名）を派遣。10 カ国の参加を得て開催された第 11 回アジア女子選手権大会に参加し女子日本代表チームは優勝した。

10) 第 12 回世界女子ジュニア選手権大会への派遣

平成 29 年 7 月 21 日～8 月 1 日までアメリカ・クリアウォーターに GEM3 女子日本代表チーム（選手 17 名、スタッフ 10 名）を派遣。26 カ国の参加を得て開催された第 12 回世界女子ジュニア選手権大会に参加し日本代表チームは準優勝した。

11) 第 15 回世界男子選手権大会への派遣

平成 29 年 7 月 3 日～19 日までカナダ・ホワイトホースに男子日本代表チーム（選手 17 名、スタッフ 9 名）を派遣。16 カ国の参加を得て開催された第 15 回世界男子選手権大会に参加し日本代表チームは第 5 位となった。

12) 第 6 回アジア男子ジュニア選手権大会への派遣

平成 29 年 10 月 26 日～11 月 6 日まで香港に GEM2 男子日本代表チーム（選手 17 名、スタッフ 7 名）を派遣。7 カ国の参加を得て開催された第 6 回アジア男子ジュニア選手権大会に参加し GEM2 男子日本代表チームは優勝した。

＜ソフトボールに関する競技規則の制定＞

- 1) ルール委員会を 2 回開催し、平成 30 年度のオフィシャル・ソフトボール・ルールの制定作業を行った。

＜ソフトボール競技公認審判員、公式記録員及び指導者の認定ならびに養成＞

1) 公認審判員認定会

平成 29 年度における認定は第 1 種 255 名、第 2 種 331 名、第 3 種 3,062 名が認定された。

2) 公式記録員認定会

平成 29 年度における認定は第 1 種 71 名、第 2 種 130 名、第 3 種 1,462 名が認定された。

3) 準指導員養成講習会

平成 29 年度における認定は 923 名が認定された。

4) 公認コーチ養成講習会

平成 29 年 12 月 15 日～19 日、東京都において実施し、48 名が受講した。

5) 審判員中央研修会の実施

平成 30 年 2 月 10 日～12 日愛知県にて全国の各都道府県ソフトボール協会の中核となる審判委員長またはこれに準ずる審判員を対象に、ソフトボール競技のルールの研究と適用、審判技術の向上を図るとともに審判員相互の連帯感を深め、より良い審判体制の確立を図るため実施した。

6) 記録員中央研修会の実施

平成 30 年 2 月 10 日～12 日愛知県にて全国の各都道府県ソフトボール協会の中核となる記録委員長またはこれに準ずる記録員を対象に、ソフトボール競技のスコアブック作成上の注意事項の確認、事例研究ならびにコンピュータでの記録集計とその活用の研修をし、さらには記録員相互の連帯感を深め、より良い記録体制の確立を図るため実施した。

7) 学校体育ベースボール型地域授業研究会の実施

全国 17 会場でベースボール型授業の指導法について、小・中学校の教員を対象に必要な知識や技能の習得を図るため実施した。

<機関誌及び刊行物の発行>

1) 平成 29 年度の刊行物

- ・ オフィシャル・ソフトボール・ルールブック（2017 年度版）
- ・ 競技者必携（2017 年度版）
- ・ オフィシャル・ソフトボール・ルールケースブック
- ・ 指導教本
- ・ スコアリングマニュアル
- ・ アンチドーピングマニュアル
- ・ 学校体育ソフトボールガイドブック
- ・ 熱中症予防パンフレット
- ・ 指導者向け体罰等ハラスメント防止リーフレット

<アンチ・ドーピングの普及>

- 1) アンチ・ドーピングマニュアルを作成・配布し、またドーピング防止に関する研修会も実施した。ドーピング検査については 5 競技会で検査を実施（48 検体）した。

収益目的事業

<ソフトボール用品・用具の検定>

1) 用具検定会の実施

平成 29 年度における用具検定会は平成 29 年 6 月 11 日、12 月 8 日の 2 回実施し、用具用品メーカーより用具検定料を徴収した。

2) 商標提供

用具用品メーカーと当法人が保有する商標等の使用許諾に関する覚書を取り交わした。

<機関誌及び刊行物の発行>

- 1) 会報（J S Aソフトボール機関誌）を年 11 回発行した。
- 2) 当法人が発行する刊行物に掲載する企業広告に対し広告料を徴収した。

<その他この法人の目的を達成するために必要な事業>

- 1) トスコイン・バットリング・会員バッジの販売
トスコイン、バットリング及び当法人会員バッジを販売した。

その他法人会計事業

<その他この法人の目的を達成するために必要な事業>

- 1) 公益財団法人日本体育協会及び公益財団法人日本オリンピック委員会、世界野球ソフトボール連盟、アジアソフトボール連盟に対し、ソフトボール界を代表して加盟した。
- 2) 理事会等、当法人の運営に必要とされる諸会議を実施した。
- 3) その他、この法人の目的を達成するために必要な事業を実施した。